

# 平成27年度 事業報告書

平成27年4月 1日から

平成28年3月31日まで

学校法人年木学園

## 1. 法人の概要

名称 学校法人 年木学園（昭和63年3月31日法人設立）  
代表者 理事長 年木 久博  
住所 大阪市淀川区野中南1丁目1番3号  
電話 06-6302-6878  
FAX 06-6309-3484

### 設置する学校

住所 大阪市淀川区野中南1丁目1番3号  
名称 アケミ幼稚園

### 役員

理事 6名  
監事 2名  
評議員 13名  
理事会 2回開催  
評議員会 2回開催  
職員 12名

## 2. 事業計画

（ アケミ幼稚園 ）

### 《教育方針》

のびのびと自分を表現できる子どもの育成をめざします

### 《教育内容》

木々の自然の豊かな環境のなかで、一人ひとりに目の行きとどいた保育を心掛けています

	3歳児		4歳児		5歳児		クラス数計	園児数計
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数		
定員	1	25	1	35	2	60	4	120
26年度	2	32	2	23	1	29	5	84
27年度	2	32	2	40	1	23	5	95
28年度	2	32	2	40	1	40	5	112

### 《保育時間》

月・火・木・金曜日 午前9時30分～午後2時

水曜日 午前9時30分～午後12時30分

### 《納付金》

保育料 年額240,000円（12分割均等納付）  
給食費 週4回 月額3,500円（実費のため変動あり）  
通園バス費 月額2,000円  
冷暖房費 年額2,650円

### 《入園時の費用》

入園料 50,000円

#### 《預り保育の時間及び費用》

月・火・木・金曜日 午後5時半まで

水曜日 午後4時まで (夏冬春休み中の預かり保育はなし)

月額 6,000円

#### 《行事实施状況》

親子園則、園外保育、七夕祭り、プール開き、お泊り保育、夏期保育(プール)、バザー、運動会、秋期遠足、移動動物園、クリスマス会、おもちゃつき、節分、ひなまつり、おゆうぎ会

#### 《施設関係》

園地面積 1,049㎡ 運動場面積 516㎡ 園舎面積 532㎡

園舎補修工事を実施。

#### 《設備関係》

エアコンの更新。

#### 《借入金関係》

短期借入金を理事長及び理事長の関連会社より借り受けしている。返済に努め、理事長から借り入れ470千円の残高になった。

#### 《事業報告》

平成27年度の事業は、前年度より11名増加し、保護者の協力を得て役職員の真摯な努力により、着実に運営することができた。

平成27年度4月より子ども子育て支援新制度がスタートしたが、新制度移行が進み、大阪府発表によると平成28年度は304園が私学助成となる。

当園は、幼稚園の本来目的の幼児教育へのこだわりから、私学助成を継続している。

さて、新制度への移行について、認定こども園の2・3号子どもの受け入れは、大阪市等が差配するので、「幼児人口が減少するので新制度移行」という、安易な対応ではなく、1号子どもを確実に確保しながら、2号・3号子どもへと結びつけていく姿勢を持たなければならない。故に、認定こども園移行は慎重に判断する。1号子どもの施設型給付を受ける幼稚園として移行あたっては、公定価格だけに依存するのではなく、上乘せ徴収・実費徴収を確実に徴収できるよう十分検討し、保護者に説明する必要がある。当園としては、新制度への移行はせず私学助成を継続していきたい。

一方、幼稚園業界では、幼稚園事業継続のために、園児は確保できているが、教諭が確保できないという、大変厳しい状況になっている。安定した教員組織にするには、新採を定期的に充実することで必要である。例えば、募集時期の前倒し、教育実習の積極的な受け入れ等可能な限りの手を尽くすのは勿論であるが、教員育成プランを策定し確実に幼稚園教諭を教育する。給与の額等で保育士だけにスポットを当てるのではなく、国を挙げて、幼稚園教諭の楽しさ、やりがい等仕事への夢を掻き立てるような取組みが今も将来にも必要な時になっている。

新制度施行しない場合であっても、2歳児への積極的なアプローチが重要であ

るので、未就園児教育の研究、実践を確実に進めたい。事情によっては、人材確保ができるようであれば、小規模保育事業の実施を研究する。

自己評価については、確実に実施し公表している。更に、その自己評価の内容を、学校評価委員会で検討し内容を別紙のとおりまとめた。内容を精査・検討し新年度の評価項目を策定することとした。

財務面では、消費収支計算書を見ると、帰属収入合計が前年比2.74%の増収となった。消費支出の部合計は、前年比4.74%低下した。帰属収支差額は、プラス4,027千円となり前年度(マイナス341千円)より、大幅に改善し、安定した経営状況となった。

収入面では、園児数が増加したので、増収となった。

支出面では、人件費は、前年比2.34%低下した。経費も、減額し、消費支出の部合計で前年比4.74%低下した。経営状況の目安である帰属収支差額比率は、前年度のマイナスからプラス6.74%となり安定した経営状況になった。

また、人件費比率は、67.64%となり、全国平均(大阪府平均)を上回っているが、教諭を安定して確保するためには、やむを得ない。

次年度繰越支払資金は、設備関係支出あって前年度繰越支払資金を上回っている。第4号基本金の額(4,000千円)を相当上回る額の支払資金を保持できているので、資金繰りは問題ない。

新年度、園児数は前年度より17名と大幅に増加するので、良好な経営状況を維持することができる。

また、当年度の卒園児は40名であるので、同数の園児募集とする。

【基本金】 学校法人会計基準に内容、種類が以下の通り規定されている。

第29条 学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その帰属収入のうちから組み入れた金額を基本金とする。

第30条 学校法人は、次に掲げる金額に相当する金額を、基本金に組み入れるものとする。

- 一 学校法人が設立当初に取得した固定資産(法附則第二条第一項に規定する学校法人以外の私立の学校の設置者にあつては、同条第三項の規定による特別の会計を設けた際に有していた固定資産)で教育の用に供されるものの価額又は新たな学校(専修学校及び各種学校を含む。以下この号及び次号において同じ。)の設置若しくは既設の学校の規模の拡大若しくは教育の充実向上のために取得した固定資産の価額
- 二 学校法人が新たな学校の設置又は既設の学校の規模の拡大若しくは教育の充実向上のために将来取得する固定資産の取得に充てる金銭その他の資産の額
- 三 基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭その他の資産の額
- 四 恒常的に保持すべき資金として別に文部科学大臣の定める額

前年度の消費支出の人件費（退職金を除く）、教育研究経費及び管理経費（それぞれ減価償却額を除く）、借入金等利息の合計を12で除した額で100万円単位。

3. 財務状況  
別紙参照。